

〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業知っておきたい話」-128- (2面)
- ・九州開拓組織女性研修会 in 熊本 (3面)
- ・長峰区70周年記念写真展開催(鹿児島) (4面)
- ・農場拝見 山中さん(福岡) (5面)
- ・コーヒー粕で敷料を代替 (6面)
- ・イネWC S給与中断でVAコントロール(7面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

開拓情報

発行所
 公益社団法人全国開拓振興協会
 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10
 TEL 03-6268-9995
 FAX 03-6268-9996
 ホームページ <https://www.kaitakusya.or.jp>
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

全国開拓代表者大会 全国開拓青年女性研修会 合同開催

家族農業経営維持と適正な販売価格確保へ

全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会の開拓中央三団体は11月16日、東京の「アルカディア市ヶ谷」で、全国開拓代表者大会と全国開拓青年女性研修会を合同開催した。生産資材の高騰などによる史上最大の農業危機の中で、開拓地営農の維持・発展を期するために全国から90名が集結し、難局を打破する確固たる意志を確認すると共に、団結を誓った。

全日本開拓者連盟青年 部副部長の甲斐健二さん 厳しい経営状況に立たざるに、同部長大塚裕 太さんの宣言により開会 した。大塚部長は「生産 資材を輸入に頼ってきた 部副部長の甲斐健二さん 厳しい経営状況に立たざるに、同部長大塚裕 太さんの宣言により開会 した。大塚部長は「生産 資材を輸入に頼ってきた



上：集結した参加者
 中：「がんばろう」三唱
 下：大会を支えた青年部役員
 右から
 大塚裕太部長
 甲斐健二副部長
 鈴田隆宏副部長



生産物の販売に際し価格 転嫁ができない状態であ り、非常に厳しい経営状 態が続いています。何と してもこの状況を打破し なければ、わが国農畜産 業の未来は無いものと考 えます。この大会を通じ、 開拓者の皆さんの団結が ますます強固になり、開 拓者農がさらに発展する 足がかりになることを期 待します」と表明した。

次に、衆議院議員で自 民党畜産・酪農対策委員 長の古川康氏が来賓挨拶 を行った(2面参照)。

来賓紹介、情勢報告が 行われた後、議長に福岡 県畜産事協の平嶋勝博代 表理事理事長が選出さ れ、議案審議に入った。

二議案が上程され(左 参照)、それに対して経 営形態別に、鈴木稔さん (若手・酪農)、牧原保 さん(鹿児島県・肉牛)、

第1号議案「家族農業 経営の推進について」 (提出者：坪幸一若手花 平農協代表理事組合長) 『地域農業は、生態系を 守り、自然や土地の持つ 能力を大いに発揮させ、 耕作地における生産性を 維持してきました。水利 や農道等の維持管理、地 域活動の伝承などが農家 によって守られてきまし た。農業全体の衰退が懸 念される中で、農畜産業 は大規模化へと変貌し、 企業等の農業参入につい

て国も進めています。 家族農業の推進は、自 然環境を守り、食料生産 環境の改善にもつながる ことから、食料・農業・ 農村基本法の見直しにあ たり、家族農業経営の持 続的な経営継承と活性化 への支援強化を求める』

齋藤典子さん(栃木県・ 養豚)、保坂充さん(栃 木県・果樹蔬菜)の四氏 が意見表明を行い、それ ぞれ経営状況の厳しさを 訴えた(2面に要旨)。

その後採決に入り、二 議案とも満場の拍手で原 案どおり決議された。

大会決議を受けて、井 上明美さん(栃木県・和 牛繁殖)が決意表明文を 読み上げ、大会の総意と して満場の拍手で採択さ れた。そして、大会決議 の実現と開拓者農・開拓 組織のさらなる発展を期 して、井上さんの発声で 「がんばろう」を三唱。

最後に大会運営副委員 長の西谷悟郎全国開拓振 興協会会長の閉会挨拶で 幕を閉じた。

夕方の懇親会では、青 年部副部長の鈴田隆宏さ んの司会で大いに盛り上 がった。

第2号議案「適正な販 売価格の確保について」 (同：平木勇開拓ながさ き農協代表理事組合長) 『生産資材の長期にお わる高騰等により農業経 営は疲弊し、先の見えな

い将来に大きな不安を抱 えています。経営を圧迫 している一番の原因は、 農業は生産者がコスト上 昇分を販売価格に転嫁で きないことにあります。 国民の豊かな食生活を 維持するため、販売面で は、国民の理解のもと、 一定以上に生産コストが 上昇した場合には、生産 者が上昇分を適切に販売 価格に転嫁できる仕組み や、コスト上昇分を政府 が補償する等の仕組みの 早急な整備を求める』

運営委員が鈴木副大臣に要請

後継者が意欲を持てる体制作りへ

合同大会の翌日、運営 ね、要請活動を行った。 委員会が菊地委員長を は 菊地委員長が、鈴木副 大臣に昨日決議した要請 文を手渡しして「全国の開 拓者たちが集結し て決議した要請で す。何とぞ実現さ せて下さい」と訴 えた。

鈴木宣弘教授の講演会

DVDで年内配布へ 振興協会

全国開拓代表者大会・ 青年女性研修会終了後、 全国開拓振興協会の講演 会事業による、講演会が 行われた。

講演 鈴木



講師は東京大学大学院 農学生命科学研究科の鈴 木宣弘教授。今回は「こ ろの日本の農畜産業」 と題しての開催。

本紙は無償で提供しています。 ご希望の方はお知らせ下さい。



価格転嫁できない原因を「見える化」して問題の本質を考える

東京大学大学院教授 鈴木宣弘氏



J A研究賞受賞
協・生協などの協同組合に代表される共生システムが生産者と消費

農産物の価格転嫁問題が大きな課題になっている。拙著『協同組合と農業経済 共生システムの経済理論』がJA研究賞を受賞したことは、意味がある。本書は「価格転嫁ができないのは『価格が需給で決まる』からでなく、不当な買い叩き圧力があるからだ」と明らかにし、どの程度買い叩かれているのかも数値で「見える化」し、独禁法を適用すべき対象が間違っていることを示した。

市場原理主義経済学は、規制撤廃こそが社会の経済的利益を最大化すると説くが、それは市場参加者が誰も価格支配力を持たないことを前提とした架空の理論であり、寡占的構造が常態化している現実社会では、規制緩和は寡占的企業への利益集中を促進し、経済格差を増幅するため、正当化されない。

さらに、取引交渉力のパワーバランスを0.5の数値で示し、0.5を下回っていると農業サイドが買い叩かれていることを示す指標を開発した。ほとんどの品目で数値が0.5を下回り、農協共販の効果はあるものの、それでも、買

表 産地 vs 小売の取引交渉力の推定結果

品目	産地 vs 小売	品目	産地 vs 小売
コメ	0.110	ばれいしょ	0.373
飲用乳	0.140	はくさい	0.375
ほうれんそう	0.261	キャベツ	0.386
さといも	0.284	たまねぎ	0.386
レタス	0.309	なす	0.399
きゅうり	0.323	ねぎ	0.416
にんじん	0.333	ピーマン	0.446
トマト	0.338	だいこん	0.471

注) 産地の取引交渉力が完全優位=1、完全劣位=0。飲用乳はvs メーカー。共販の力でコメは3000円/60kg程度、牛乳は16円/kg、農家手取りは増加できている。

研究の経緯と意義
著者が農林水産省で行政に携わったのち、研究職に転じて農業総合研究所で開始した最初の研究が、生乳の価格形成メカニズムの解明であった。

さらに、農産物の販売

価格への価格転嫁が十分にできない農家が苦しんでいる原因も「価格が需給で決まる」からでなく、不当な買い叩き圧力があるからだということを明確に示すことが不可欠と判断し、まともな上げた。

と考えられる。なお、今回の受賞は、食農資源経済学会賞に続く受賞で、関係する多くの方々に感謝したい。拙著を農林水産省の危機打開に少しでも活用したい。

知っておきたい話

第128回

生乳共販などの効果の「見える化」

生乳共販などの効果の「見える化」

生乳共販などの効果の「見える化」

生乳共販などの効果の「見える化」

生乳共販などの効果の「見える化」

生乳共販などの効果の「見える化」

生乳共販などの効果の「見える化」

生乳共販などの効果の「見える化」



代表者大会の来賓挨拶 衆議院議員 古川 康氏

定と食料自給率向上のため、一貫して取り組んでこられた貴連盟に改めて敬意と感謝を申し上げます。

食料安全保障の強化、環境対応、人口減少への対応の3本柱を中心に、意欲のある若者や農業者が夢を持つて農業に取り組めるような環境整備、元気で豊かな農村の次世代への継承等を実現するべく、皆さまと共に頑張

私は若手県滝沢市で酪農を営んでいる鈴木稔で、2年前に親から経営譲渡を受け、自らの手で経営を行っています。

私は、子ども向けの農業体験や学生の研修受け入れを実施しています。生徒たちは面白い仕事だ、農業をやってみたい、と興味を示してくれ、今の状況下では自信を持って農業をやってく

ださい、と子どもたちの背中を押せません。農業の地位を高め、たくさんの子どもたちが憧れるような職業にするため、これまで以上の支援をお願いしたい。未来をこの手で守っていきましよう。

肉用牛の繁殖一貫経営を今、需要減退から枝肉相場は低落し、生産資材高騰でかつて経験したことのない厳しい経営環境で、このままでは金融機関からの資金調達も難しくなり、経営を断念せざるを得ない状況になりかねません。私たち生産者にとつて死活問題です。

齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚)

齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚)

齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚)

代表者大会の意見表明

齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚)

齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚)

齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚)

齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚)

齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚) 齋藤典子(栃木・養豚)

自由民主党、農林水産関係団体委員長、畜産・酪農対策委員長の古川康氏。皆さまの汗の結晶である、わが国の豊かな国土・農業を引き継ぎ、開拓

後、世界人口の激増も想定すると、わが国では食料安全保障のさらなる強化が必要になります。

私は鹿児島県鹿屋市で生乳共販などの効果の「見える化」

生乳共販などの効果の「見える化」

生乳共販などの効果の「見える化」

生乳共販などの効果の「見える化」

生乳共販などの効果の「見える化」

生乳共販などの効果の「見える化」

生乳共販などの効果の「見える化」



保坂充(栃木・園芸) 保坂充(栃木・園芸) 保坂充(栃木・園芸)

インボイス研修・討論で交流

九州開拓系統女性職員研修会

全開連西日本支所は11月22日、熊本市の熊本商工会議所で、「九州開拓系統女性職員研修会」を開催した。女性職員の横のつながりを深め、日々



自由討論の様子
上：1班・下：2班

の業務の課題の共有や、女性ならではの発想を活躍させるようにとの趣旨で「九州開拓系統女性職員研修会」を集まった。現在、試行錯誤の中にあり、「インボイス制度」について、講師による説明や質疑応答と、女性職員同士の情報交換や討論を交えたディスカッションが行われた。第一部では、熊本国税

局課税部消費税課軽減税率・インボイス制度係長の門脇義久氏により、「適格請求書等保存方式の概要」、「インボイス制度」について、自由討論を通じて、女性ならではの組織運営に反映していきたい。活発な議論をお願いしたい」と挨拶した。

出席者からは、奨励金の支払い方法についてや、組合員農家が子牛を購入する際に生じている問題などについて、多くの質問が寄せられた。

出席者は熱心に講演を聴講し、新しい難解な制度に戸惑いながらも、正確に業務に取り組めるよう、インボイス制度について研鑽を深めた。

最優秀賞に豊穂坂牧場

福岡県畜産事協枝肉共進会

福岡県畜産事協は11月27日、福岡市中央卸売市場食肉市場で23年度の枝肉共進会を開催した。6組合員から交雑種4頭ずつ、計24頭(去勢8頭、



左から穂坂さん、上栞(ウワガキ)さん、落合さん

20・8kg、口1ス芯面積71cm、バラの厚さ8・0cm、BMS No.9、格付はA5にランクされた。

佐賀開拓びより牛・開拓豚枝肉共進会 佐賀県開拓畜産事協は11月30日、(一社)佐賀県畜産公社で第8回佐賀開拓びより牛・開拓豚枝肉共進会を開催した。今回、黒毛和種18頭(全去勢)、交雑種4頭(去勢2頭、雌2頭)がそれ

それぞれ出品された。格付・審査の結果、黒毛和種から選ぶ最優秀賞は、山口義男氏の出品牛に輝いた。生後26カ月と、申し分ない枝肉だった。

黒毛和種全体の成績は、平均枝肉重量が56kg、雌2頭は25・0kg、4等級以上比率は91・7%、4等級以上比率は58・3%と好成績だった。枝肉重量は前年より9・7kg増加しており、

山口氏に最優秀賞

佐賀開拓びより牛・開拓豚枝肉共進会



最優秀賞の山口さん

5・7kg、肉質4等級以上比率100%、5等級の平均は、ロース芯面積80・6cm、バラ厚8・9cm、BMS No.11・3、歩留基準値72・8だった。

開拓ながさき畜産共進会 開拓ながさき畜産共進会は12月11日、福岡市中央卸売市場食肉市場で第13回開拓ながさき畜産共進会を開催した。今回は、開拓

拓交雑牛の最優秀賞は、(株)坂口畜産の出品牛(去勢)で、生後26カ月齢、種雄牛「幸忠栄」、枝肉重量683・1kg、ロース芯面積69cm、バラ厚9・4cm、BMS No.10、格付A5、歩留基準値72・6kg、ロース芯面積87cm、バラ厚9・8cm、BMS No.12、格付A5、歩留基準値78・2だった。



最優秀賞の坂口さん

【黒毛和種部門】最優秀賞 山口義男

筑波山麓で芝の日本一へ

茨城県つくば市・南作谷開拓



明日に希望を繋ぎ、家族をあげての努力を続けるうち、国の助成や融資もあり、経営の危機を続けながらも、次第に収穫物と家畜の増加を見ることができた。



現在、茨城県は芝の日本一の産地で、そのほとんどがつくば市で生産されている。「創郷之碑」の周りは、今も壮大な芝の畑が広がり、筑波山のふもとを緑で染めている。

茨城県つくば市の南作谷開拓は、筑波山の南麓にあり、台地が広がっている。戦中は陸軍西筑波飛行場であったが、戦後開拓事業の対象となった。85(昭和60)年に建てられた碑に南作谷開拓の歴史が刻まれているので紹介する。

「創郷之碑」 自農家を自指す54戸が開拓の礎をおろしたのは46年、続いて国の開拓増産の訓練を受けた13戸が加わった。

甚だしい痩せ地に増加したが、よく協力・融和し、いささかの違和感も無い。

60年代から入郷する者が増したが、よく協力・融和し、いささかの違和感も無い。

むら創り40年に際し、改めて過去の苦難を回想し、速に規模を拡大し、他の集落でも行われるようになった。

現在、茨城県は芝の日本一の産地で、そのほとんどがつくば市で生産されている。「創郷之碑」の周りは、今も壮大な芝の畑が広がり、筑波山のふもとを緑で染めている。

85年11月吉日 南作谷区民一同

我々を苦しめたが全員よく耐え凌いだ。58年に始めた芝の作付けはこの地に適するため、急速に広がり、全国有数の生産地となるに至っている。

60年代から入郷する者が増したが、よく協力・融和し、いささかの違和感も無い。

むら創り40年に際し、改めて過去の苦難を回想し、速に規模を拡大し、他の集落でも行われるようになった。

現在、茨城県は芝の日本一の産地で、そのほとんどがつくば市で生産されている。「創郷之碑」の周りは、今も壮大な芝の畑が広がり、筑波山のふもとを緑で染めている。

鹿児島県
屋久島長峰区70周年
記念写真展開催

戦後開拓農家の家族写真を展示

各地で開拓農家の頑張りを伝える取り組みが行われている。

特定非営利活動法人

屋久島国際写真は9月23日、長峰区70周年記念の行事として、「FOURND PHOTO AR CHIVES PROJ ECT」#04長峰を開催した。

戦後開拓地だった長峰

区の開拓当時の歴史を、デジタル保存・共有することが目的。区の協力の下、当時の開拓や生活の様子に分かる古写真を収集。スライドにして長峰生活館で上映した。展示

内容と長峰地区の歴史を紹介する。

◇長峰地区の成り立ち

現在の長峰区に当たる場所では、小瀬田地域(現在も長峰に小瀬田の地名は住所として残っている)に、46(昭和21)年頃に最初の入植が始まった。52年、小瀬田、曙、瑞穂の3つの組合が合併して長峰開拓農協が発足。

その後デンプン工場を誘致し、カンショからデンプンを生産した。56年に長峰(当時の資料は「峯」表記も混在)地区への173戸全戸の入植生活館で上映した。展示

が完了。57年には上屋久開拓農協に改名し、総戸数322戸となった。

◇きびしい自然の開拓農家

屋久島は自然環境がきびしく、開拓を進めるには非常に過酷な環境だった。

鉦や鎌での雑竹林の伐開、雑草の焼き払い、抜根、開拓鉄での掘り起こし、砕土、草木根と石の除去、整地の手順で開墾。真夏はツワの葉を被って開拓を進めた。しかし、植えても植えても農作物は毎年のように台風や旱魃に見舞われた。現在も屋久島内の茶園販売所やホテルのロビーでも放映され、お孫さんや行政機関が置かれ、現在は屋久島の玄関口となっている。長峰神社横に現在も「拓魂」の碑があり、長峰のアイデンティティとなっている。



スライドで展示された古写真の1枚



展示を見学する皆さん

写真提供：2枚ともに特定非営利活動法人 屋久島国際写真祭

食料自給率45% 「達成困難」7割超

約6割でコメの輸出増に賛同

紀尾井町戦略研究所(株)は10月20日、「日本の農業に関する意識調査」の結果を発表した。全国の18歳以上の男女1千人から回答を得たもの。

■現状の食料自給率と今後の目標について

「食料自給率が、65年の73%から22年時点で38%まで減少していることについてどう思うか」では、「問題」「やや問題」は、94.3%に上った。「問題だと思

■農業の補助金と農業者への意識

一方、「日本の農業への政府の補助金について」では、「食料自給は重要だが補助金以外の方

■輸出への意識

「コメについて、増産や輸出増を目指すべきか」という質問に対しては、7.6%にとどまった。

■「コメについて、増産

「政府が掲げる30年度までに45%にするという目標」は「達成できないと思う」が72.3%と、多数を占めた。「達成できると思う」は6.4%だった。

「輸出について、増産や輸出増を目指すべきか」という質問に対しては、7.6%にとどまった。

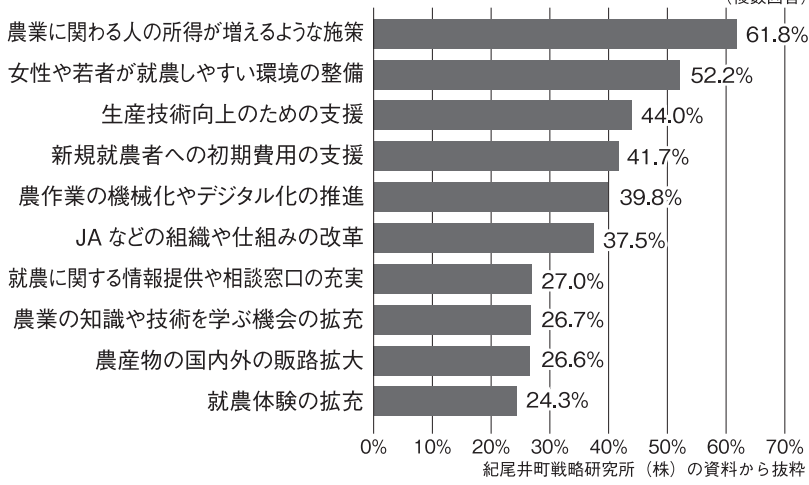
「おかし」は7.6%にとどまった。

「増やすべき」が49.6%と、前向きに検討すべきとの意見が多数を占めている。

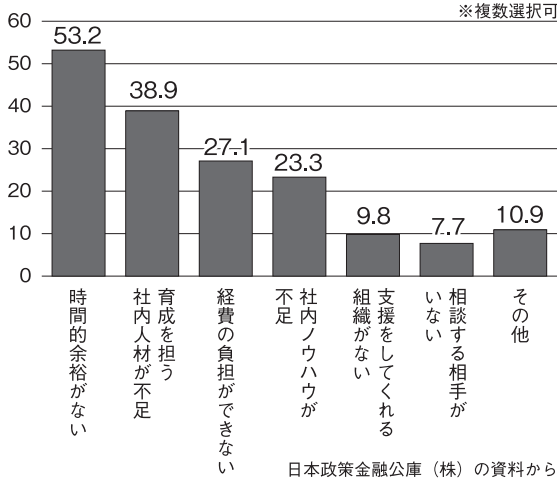
コメの消費拡大や、農業への補助の必要性について、消費者の理解醸成が重要となる。

「コメについて、増産や輸出増を目指すべきか」という質問に対しては、7.6%にとどまった。

農業従事者を増やすためにできると思うこと



人材育成に取り組むに当たっての悩み



「どんな人材の育成に取り組んでいるか」という質問に対しては、7.6%にとどまった。

管理監督可能な人材を育成 時間的余裕のなさが課題

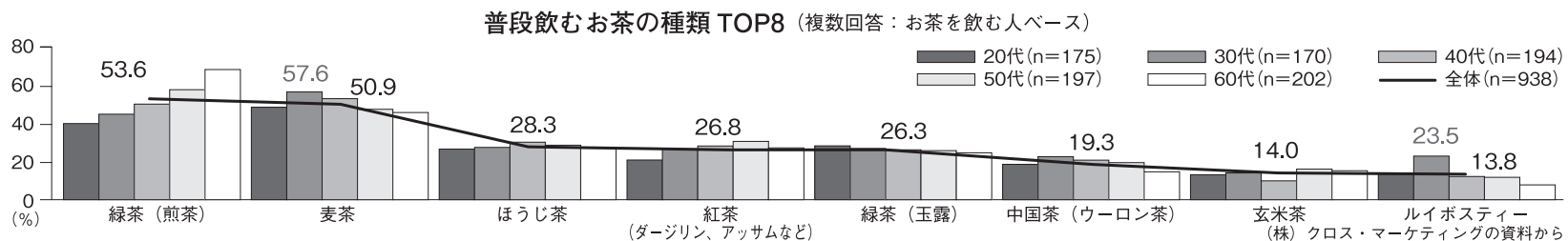
日本政策金融公庫(株)は10月19日、「農業景況特別調査(23年7月)」の結果を発表した。調査対象は、スーパール資金「経営判断を担える人材」または農業改良資金の融資を受けている生産者で、5020先から回答を得た。

「現場作業の遂行能力をできる人材が44.1%、特別調査(23年7月)」の結果を発表した。調査対象は、スーパール資金「経営判断を担える人材」または農業改良資金の融資を受けている生産者で、5020先から回答を得た。

「普段飲むお茶の種類」は、図のとおり。緑茶と「ペットボトル」が51.5%、「ティーバッグ」が57.6%、ルイボステイが23.5%と他世代より割合が高かった。

「普段よく飲むお茶」緑茶、麦茶が5割超

ペットボトルの飲用がトップ





ナシ栽培に取り組む開拓2世と第三者継承 福岡県飯塚市内野鹿喰 山中建治さん・千代子さん・上村さん

福岡県飯塚市南部を走る国道200号線沿いに長崎街道内野宿がある。当時の面影を色濃く残す宿場を抜け、細い山道を登っていくと、やがて内野鹿喰という開拓地にたどり着く。同地の開拓果樹農家がテレビ朝日系列「ポツンと一軒家」という番組で紹介されたので、取材に訪れた。

開拓の歴史と経営形態

果樹園は、開拓2世である山中建治さん(88)が1人で経営。近年は、埼玉県に住む妹の千代子さんが春～秋の繁忙期に住み込みで手伝いに来ている。5～6反ほどの段々畑で、梨を60本、ブドウを15本栽培するほか、ユズやスタチも栽培している。収穫したこ



左から建治さん、千代子さん、上村さん



れらの果実は、近隣のファーマーズマーケットやスーパーに出荷している。

戦後、韓国から家族全員で引き揚げ入植。当時、国有林だったスギ林を伐採してもらい、伐採跡をきれいに焼いて、機械がないため自らの手で一畝一畝開墾していった。土壌は酸性に偏っていたため炭カルルの支給があったが、道が整備されていなかったため、下の集落から1俵ずつ担いで運ぶ必要があった。集落全体で借金をして電柱を立てるまではランプ生活、水源を見つけて水を引くまでは川まで汲みに行ったりと、幼少期から厳しい生活を送った。

当初は、段々畑でサツマイモなどを栽培することで生計を立てていたが、復興景気で値段が暴落。地元のナシ農家に住み込みで栽培法を学び、ナシの栽培を開始した。鶏を1000羽規模で飼



山中に囲まれた果樹園全景

養していたこともあったとのこと。家計を助けるために県内外でトラック運転手として働きながらも休日は剪定などを手伝っていたが、定年を機に戻り、現在に至る。

なお、同開拓地には記録では15戸入植したとあるが、現在は山中さんが最後の1戸となっている。

果樹栽培で力を入れていること

果樹栽培で気を付けていることは、木をよく見ることだということ。建治さんが栽培する二十世紀ナシは、美味しさだけでなく果実の肌のきれいさにも気を配る必要があるため、袋掛けや落ち葉掃きなど、とにかく基本的なことはしっかり行っているとのこと。

また、地力維持のために有機肥料(魚の骨の粉末、カニの殻や油粕など)や酪農場の堆肥を施用している。そのため、農家仲間には土が柔らかくてホクホクしていると好評。建治さんは「土は財産だ」と語る。

収穫したナシを頂いたが、程よい甘さとみずみずしさがあり、大変美味しかった。

テレビ放送の反響

これまで建治さん1人で栽培管理を行ってきたが、放送後、草刈りや収穫などを手伝ってくれるボランティアが県内外から訪れるようになった。取材当日もボランティアの姿が見られた。

また、後継者がいないことが悩みの種だったが、テレビを見た多くの人から後継者になりたいという問い合わせが沢山あった。その中から、東京で長年会社勤めをしていた上村さん(59)を後継者として迎え、寝食を共にしながら栽培技術を教えている。作業量が非常に多く、農業経験もないので難しいことが多いが、建治さんの立派なナシ園を守っていきたくて語ってくれた。

開拓者の想いとナシ園が途絶えることなく、次の世代へと引き継がれていく姿を見ることができた。

飼料用子実トウモロコシの収穫進む 栃木開拓の挑戦を紹介

昨今、国産濃厚飼料として、水田を生産基盤とする子実用トウモロコシの栽培が広がりつつある。

11月末の鹿沼市(栃木県)を訪れると、子実用トウモロコシの収穫が進められていた。栃木県開拓農協は、水田作を行う農業生産法人と契約し、子実

用トウモロコシの栽培と収穫を委託、購入している。6～7月頃に播種し、11～12月頃に収穫する栽培体系となっている。この時期に収穫すると、トウモロコシが乾燥しているため、収穫作業が容易となる。今年は、10a当たり400～600kgほどの収穫量となってお

り、去年より多い収穫量となった。

さらに、播種を4～5月に早めることで収穫量は800kg～1tにもなるという。

収穫後は、同法人の乾燥機で乾燥後、倉庫で保存する。年明けに飼料メーカーに持ち込み、加熱・圧ペんし、飼料化している。飼料として、同農協管内の養豚農家が4軒5農場、肉牛農家が2軒、給与している。

子実用トウモロコシは、湿害に弱いほか、虫による被害も問題となる。同法人の場合、アワノメイガによる被害が大きく、被害果からカビ毒につながる恐れがある。今年度、防除に効果的な薬剤が適用拡大登録されたため、ドローンを用いた農業散布をしたところ、被害は激減したという。

今後の展望を同農協の神山次長に尋ねると、様々な課題が見えてきた。飼料メーカーにトウモロコシを持ち込む際、海外産と国内産で明確に分ける必要があるとのこと。法整備が進み、持

り、去年より多い収穫量となった。

さらに、播種を4～5月に早めることで収穫量は800kg～1tにもなるという。

収穫後は、同法人の乾燥機で乾燥後、倉庫で保存する。年明けに飼料メーカーに持ち込み、加熱・圧ペんし、飼料化している。飼料として、同農協管内の養豚農家が4軒5農場、肉牛農家が2軒、給与している。

子実用トウモロコシは、湿害に弱いほか、虫による被害も問題となる。同法人の場合、アワノメイガによる被害が大きく、被害果からカビ毒につながる恐れがある。今年度、防除に効果的な薬剤が適用拡大登録されたため、ドローンを用いた農業散布をしたところ、被害は激減したという。

今後の展望を同農協の神山次長に尋ねると、様々な課題が見えてきた。飼料メーカーにトウモロコシを持ち込む際、海外産と国内産で明確に分ける必要があるとのこと。法整備が進み、持



コンバインを用いて収穫



その場で粒状に

ち込みやすくなってきたそうだが、効率性も課題となっている。

また、最も重要な課題として、助成金や補助金がないと国産化は成り立たないという。今後も取り組みを続ける予定ではあるが、コストに見合った収穫量の確保など、課題は多く残されている。

田畑ともに減少傾向 23年耕地面積

農水省が10月31日に公表した「23年耕地面積(7月15日現在)」によると、全国の田畑計の耕地面積は429万7000haで、前年に比べ2万8000ha(0.6%)減少した。荒廃農地からの再生などによる増加があったものの、耕地の荒廃・転用などが影響し、全体では減少している。

田の耕地面積は233万5000haで、1万7000ha(0.7%)減少した。地域別にみると、東北は4300ha(0.7%)、九州は3200ha(1.1%)、関東・東山(山梨県・長野県・岐阜県)は2500ha(0.6%)とそれぞれ減少した。今年も去年に続

いて全地域で減少している。

畑の耕地面積は196万2000haで、1万1000ha(0.6%)減少した。地域別にみると、関東・東山は2800ha(0.9%)、東北は2400ha(1.0%)、九州は1600ha(0.8%)減少した。畑は、変動がなかった北陸を除く、他のすべての地域で減少した。

畑耕地の種類別面積を見ると、普通畑は112万haで3000ha(0.3%)減、樹園地は25万3500haで5100ha(2%)減、牧草地は58万9000haで2300ha(0.4%)減となった。地域別にみると、九州で普通畑が600ha増、沖縄で牧草地が40ha増となった以外はすべて同率または減少している。



コーヒー粕を敷料に 水分率低下で全量置き換えも

オガ粉やパーク材が不足して価格が高騰しており、敷料としての確保が困難な畜産農家が出てきている。

敷料不足に対応するため、オガ粉の代わりに、コーヒー粕を敷料に利用する実証試験を行っている Kalm 角山(北海道江別市・以下、実証農場)と農研機構を取材した。

～実証農場でコーヒー粕とモミ殻を混合使用～

コーヒー粕単体の水分率は約65%で、現状で確認できているだけでも年間30万tが飲料工場から廃棄されている。

実証農場では、以前は敷料にオガ粉のみを利用していたが、19年に引き先のオガ粉生産業者が廃業となり、オガ粉の入手が難しくなったことから、代替敷料を探すこととなった。

現在は、地域から発生するコーヒー粕とモミ殻を5:5の割合で混ぜ、水分率を55%程度にすることで敷料として利用していて、オガ粉利用時に比べて乳房炎等のトラブルは減少した。

～密閉縦型堆肥化装置が生産簡易化に役立ち～

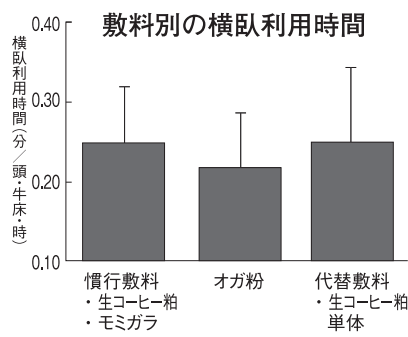
水分の低い、より高品質な敷料を生産するための取り組みも始まっている。

「密閉縦型堆肥化装置(養豚場・養鶏場で普及率が高い)」を用いると、コーヒー粕の発酵乾燥が短時間で大量に

行える。発酵促進のため**糖蜜**を添加してコーヒー粕の発酵を行った結果、モミガラを混ぜずとも、水分率を35%以下まで乾燥させることができた。

乾燥したコーヒー粕は体積当たりで見るとオガ粉以上の吸水率があり、牛の横臥利用時間でもオガ粉と同等の快適性が確認された(図)。また、大腸菌群も、敷料として利用できる基準を満たし、オガ粉と同等以上の品質となった。

コーヒー粕の他にも、年間30万tが発生するキノコの廃菌床や茶粕などの資材についても同様の試験が行われて



フリーバーン乾乳舎でのコーヒー粕敷料の使用の様子(敷料入れ替え後に撮影)

写真・図ともに農研機構の資料から

いて、敷料不足への対応技術として期待が高まっている。

これらの試験は、農林水産省「スマート農業実証プロジェクト(ペレット堆肥活用促進のための技術開発・実証)」により、今後2年間にわたって進められる。



生コーヒー粕にモミガラを混ぜて水分を55%未満に調整した敷料

「私のミルク鍋プロジェクト」開催 年末年始は牛乳でお鍋を

寒い時期には牛乳の消費量が減少するため、牛乳の消費を喚起する必要がある。Jミルクは「私のミルク鍋」キャンペーンを実施し、年末年始の牛乳の消費促進に取り組む。

キャンペーンの開催期間は、23年12月15日～24年1月31日。参加方法・手順は、①Jミルクの公式SNSをフォロー②「ミルク鍋」を作る③作ったミルク鍋の写真や動画を撮影④ハッシュタグ「#私のミルク鍋」を付けて投稿一となっている。

牛乳を使ったものであればどんな鍋料理でも参加できる。同じ写真を投稿することはできないが、期間中は何度でも投稿することができるので、牛乳を使った様々な種類の鍋を試してみたい。

参加者の中から抽選で10名に両手鍋とカップのセットが贈られる。今年度のキャンペーンでは水産庁が設けている「さかなの日」や「全国豆腐連合会」、「日本豆腐協会」ともコラボしており、



出典：Jミルク

魚介類や豆腐類をミルク鍋に使って楽しむことも提案している。

Jミルクのホームページからは、「麻婆牛乳鍋」や「とろ～りチーズの洋風ミルク鍋」などのレシピも見ることができる。これらのレシピを参考に、冬場の寒さを栄養たっぷりの牛乳鍋で元気に乗り切りたいものである。

興部町 再生エネルギーの未来へ バイオガスサミット2023in 京都

生産資材価格や燃料費の高騰により、廃棄物を利用した資源の再生や発電など、資源の有効活用と新たな資材やエネルギー源の確保が求められている。

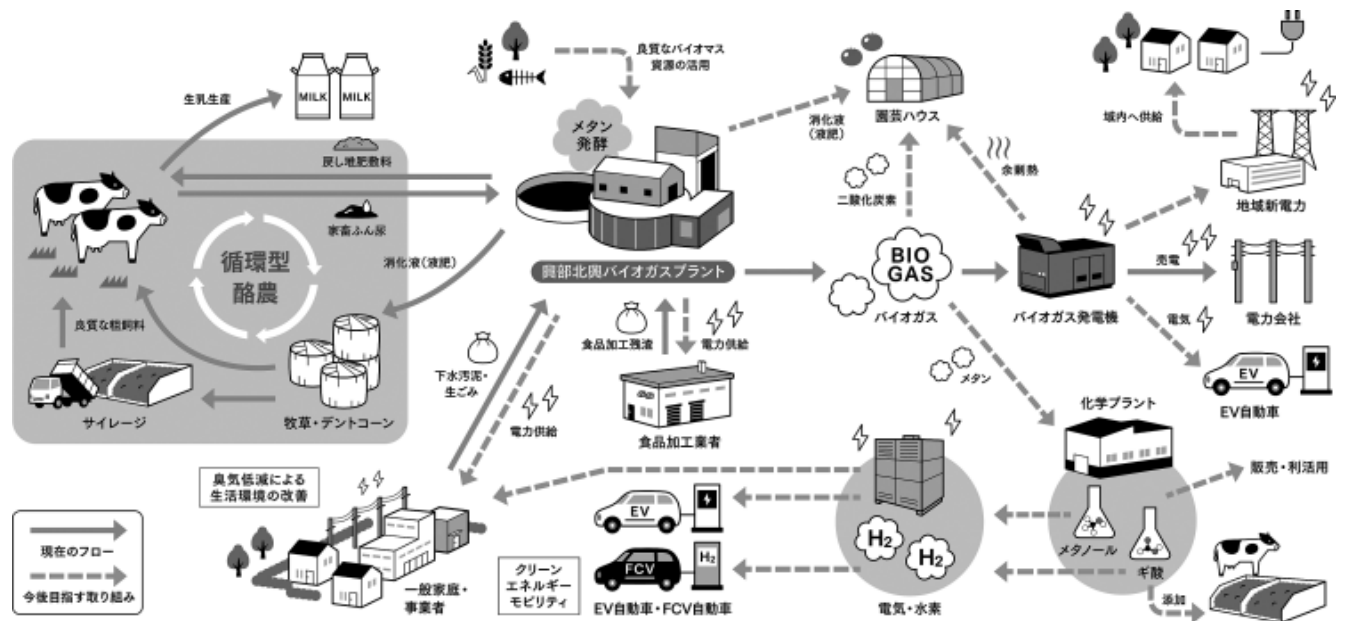
京都府南丹市の主催で、10月21日に「バイオガスサミット2023一次世代型バイオガスプラントを目指して」が開催された。当日、北海道興部町が、「農業地帯のまちづくりとバイオガス」と題して発表を行ったので、その概要を紹介する。

〇乳用牛のふん尿から資源を

興部町では、16年11月にバイオガスプラント(プラントの発酵層の中で自動的に家畜ふん尿などの処理を行うシステム。発酵の過程でメタンガスや熱が発生する)を竣工した。原料は家畜ふん尿や下水汚泥、生ゴミ、食品加工残さを利用している。

乳用牛のふん尿は水分量が多いた

め、堆肥化の際に発酵が未熟で、堆肥として利用すると雑草の種が拡散し飼料の雑草混入率が上がることなどが課題だったため、飼料品質の向上を図るために始めた取り組み。現在は液肥か



多面的な機能があるバイオガスプラント

北海道興部町の資料から

る「ギ酸」や、「メタノール」を製造し、電気や水素を発生させて新たな化石燃料代替エネルギーを生産する。また、防災対策としての電源の確保を目指すことも含め、活用の幅の拡大を目指していく。

乳用牛のふん尿がエネルギーとなって、町ぐるみで人を支える生活資源となることを期待したい。

肥育中期 イネWCS 中断で ビタミンAコントロール 黒毛去勢短期肥育体系で

島根県畜産技術センターでは以前、黒毛和種去勢牛の26ヵ月齢出荷肥育体系での発酵TMR（混合飼料）の給与効果を検証した。29ヵ月齢出荷の慣行区と同等の肥育成績で、短期肥育に有効な飼料給与体系であることが示されている。

さらに、粗飼料をイネWCSに置き換えた発酵TMRを全期間給与したところ、肉質等級の5等級割合の低下が課題となった。

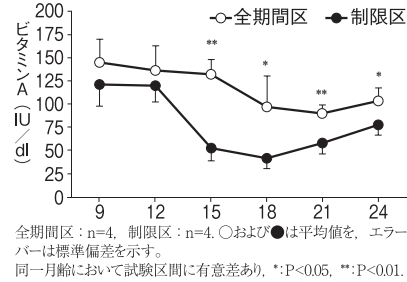
そこで同センターは、発酵TMRの原料にイネWCSを用いた給与体系で、ビタミンA（以下、VA）コントロールを可能にすることを目的に、肥育中期（14～20ヵ月齢）にイネWCSの配合を中断し、血漿中VA濃度の推移と肥育成績に及ぼす影響を検討した。

方法

8ヵ月齢の黒毛和種去勢牛8頭を供試し、26ヵ月齢まで発酵TMR給与体系による肥育管理を行った。

イネWCSを肥育全期間給与する「全期間区」に4頭、肥育中期にイネ

図 肥育期間中の血漿中ビタミンA濃度の推移



WCSを給与しない「制限区」に4頭を配置。発酵TMRの内容は表1の通り。両区それぞれ、イネWCS配合の発酵TMRを用い、8～13ヵ月齢には前期TMR、14～26ヵ月齢には後期TMRを給与した。制限区は、14～20ヵ月齢にイネWCSを配合しない中期TMRを給与し、その他の期間は全期間区と同じ発酵TMRを給与した。

すべての発酵TMRは水分が43%となるよう原料に加水し、TMRミキサーで混合した。これをフレコンバック内のビニール袋に投入して脱気・密封し、3週間以上発酵貯蔵したものを飽食給与した。VA濃度が50IU/dl以下の個体には、VA_{D3}E製剤をVAとして10万IU、経口投与にて補給した。

結果

制限区のVA濃度は、イネWCSの配合を中断した15ヵ月齢以降低下し、全期間区と比べて有意に低く推移した(図)。また、制限区ではイネWCSを中断していた15～21ヵ月齢まではVA濃度が60

表1 発酵TMRの原料構成割合と成分含量

	前期TMR	中期TMR	後期TMR
飼料構成 (乾物中%)			
濃厚飼料	65.7	78.9	79.6
粗飼料	34.3	21.0	20.4
粗飼料中のイネWCS割合	72.9		57.4
成分含量 (乾物中%)			
粗タンパク質	15.9	11.5	12.1
中性デタージェント繊維	41.3	32.6	32.2
可消化養分総量	66.1	74.0	74.7

※可消化養分総量は日本標準飼料成分表(2009年版)に基づく推定値

表2 飼料成分摂取量と発育

	全期間区 (n=4)	制限区 (n=4)	p値
摂取量 (kg)			
乾物	4371±25	4731±156	0.08
粗タンパク質	642±1	678±21	0.14
可消化養分総量	3171±23	3365±106	0.13
体重 (kg)			
肥育開始時 (8ヵ月齢)	265±14	269±31	0.82
肥育前期終了時 (14ヵ月齢)	492±5	490±45	0.92
肥育中期終了時 (21ヵ月齢)	694±22	697±70	0.95
肥育終了時	790±58	811±71	0.66
日増体重 (kg/日)			
肥育前期 (8—13ヵ月齢)	1.25±0.07	1.23±0.10	0.77
肥育中期 (14—20ヵ月齢)	0.96±0.12	0.97±0.12	0.90
肥育後期 (21ヵ月齢—肥育終了時)	0.69±0.36	0.84±0.13	0.46
肥育全期間 (8ヵ月齢—肥育終了時)	0.99±0.15	1.03±0.10	0.67

数値は平均±標準偏差を示す。
※可消化養分総量は日本標準飼料成分表(2009年版)に基づく推定値

IU/dl以下に抑えられており、肥育中期のイネWCS配合の中断でVAコントロールが可能であることが示された。なお、VAの補給は肥育中期の間に全期間区で2回、制限区で6回行った。

肥育期間中の飼料摂取量と発育は表2の通り。乾物摂取量は、全期間区よりも制限区で高い傾向にあり、肥育全期間の日増体重(D.G.)も制限区の方が高かったため、肥育中期にイネWCS配合を中断したことによる飼料摂取量や発育への悪影響はないことが示された。

枝肉成績は表3の通り。肉質等級4以上率は制限区が全期間区と比べて高い値となった。制限区のVA濃度は、

表3 枝肉成績

	全期間区 (n=4)	制限区 (n=4)	p値
枝肉格付成績			
枝肉重量 (kg)	485.9±21.5	509.9±37.0	0.31
胸最長筋面積 (cm ²)	59.3±8.8	62.5±9.0	0.62
ぼらの厚さ (cm)	8.0±0.5	8.8±0.5	0.07
皮下脂肪の厚さ (cm)	2.5±0.3	2.4±0.5	0.86
歩留基準値	74.2±1.1	74.9±0.7	0.33
BMS No	5.5±1.3	5.8±0.5	0.73
BFS No	4.8±0.5	3.5±0.58	0.02
肉質等級4以上率	3/4 (75%)	4/4 (100%)	-
肉質等級5率	0/4 (0%)	0/4 (0%)	-

数値は平均±標準偏差を示す。
※可消化養分総量は日本標準飼料成分表(2009年版)に基づく推定値
図・表は島根県畜産技術センター研究報告46.1-7から一部改変して引用

15～21ヵ月齢まで80IU/dl以下にコントロールされたが、BMSNo.に有意な差は認められなかった。

また、イネWCS配合の中断による胸最長筋中ビタミンE含量の低下は見られず、イネWCSを肥育全期間配合した場合と同等の肉の変色防止効果が期待できることが示された。

同センターは、肉質等級やBMSNo.改善の効果がなかった理由について、肥育後期の飼料中エネルギー含量が不足しており、脂肪交雑向上効果が十分に得られなかった可能性を挙げている。そのため、エネルギー含量を高めた発酵TMRメニューの設計を今後の課題としている。

2年ぶりの開催、全国から畜産女性集う 全国畜産縦断いきいきネットワーク大会

畜産・酪農に携わる女性たちが設立した「全国畜産縦断いきいきネットワーク」の23年度大会が10月23日、都内で現地開催された。ここ数年はコロナ禍の影響で、開催の見送りやオンライン開催が続いていた。

今年のテーマは「畜産に未来を託して～次世代が継ぎたい畜産業であるために～」。生産者・関係者など計104名が参加した。基調講演のほか、各

会員が畜産の将来像や、次世代につないでいくために大切にしたいと思っていることを1人3分程度で意見発表した。

久保香代子氏(埼玉・肉用牛)は、「エサも高い、資材も高い、牛肉安い、子牛も安いと八方塞がり減入することも多いが、生産者のみんなは国民の食料生産を支えていると誇りを持って頑張っていくましよう」と語った。他の



参加者からも様々な意見が出され、全国の畜産女性の励みになるような発表が行われた。

最後に、久保氏(同)による大会宣言が満場一致で採択され、久々の大会は盛会裏におわった。

農畜産業振興機構は12月14日、肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の交付金単価(23年10月分、概算払)を公表した。

交雑種で標準的販売価格が標準的生産費を下回ったため、交付が行われる。肉専用種は41都道府県で発動した。乳用種は、先月に引き続き発動しなかつ

交雑種で発動、乳用種は発動せず 牛マルキン10月分、先月分訂正

た。交付金単価(1頭当たり)は、交雑種が4万4598.8円(前月は5万3065.8円、確定値)となっている。

前月分と比べると、交雑種は販売価

格が下落したが、素畜費も下落したことに加え概算払いのため、交付金は減額となった。

また、同機構は牛マルキン(23年7～9月分、確定値)の交付金単価を再

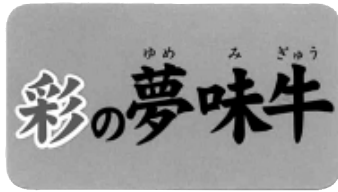
修正すると公表した。修正されたのは、肉専用種(北海道)と交雑種の9月確定値。交雑種は、9月確定値の交付金単価が、4万5247.5円から5万3065.8円に修正された。同機構は、交付金単価の変更に伴い、速やかに追加分を振り込めるように手続きを進めるとしている。

「彩の夢味牛」入間市農業まつりで販売 中村さん・石田さん(埼玉:JB 農協)が出店

11月23日、入間市(埼玉県)の「彩の森入間公園」で入間市農業まつりが開催された。地元産の農畜産物の販売が目的で、今年で51回目となる。

同イベントには、戦後開拓農家である、中村博行さんと石田昌俊さん(共にジャパンビーフ農協所属)が出店し、自らが生産した「彩の夢味牛(交雑種)」の販売が行われた。肩ロースとひき肉のパックを販売し、2人の呼びかけに多くの来場者が足を止め、購入。当日中に完売し、盛況のうちに終了した。

彩の夢味牛は、夢味牛生産部会員が埼玉県内で肥育した交雑種と黒毛和種



のことで、「彩の国夢味牛認定基準」をすべてクリアすることで命名できるブランド牛。BSEの発生や偽装表示などにより消費者の不安が高まったことを機に、当時の埼玉県開拓農業協同組合連合会と夢味牛生産部会が、消費者へ安全でおいしい牛肉を提供することを目的として同ブランドを立ち上げた。すべての牛に統一されたブランド用



左：中村さん 中央：石田さん

肥育配合飼料(分別された非遺伝子組み換えのトウモロコシ、大豆豆粕が原材料)を給与して肥育している。また、ハサップ方式の考え方を取り入れた「彩の国畜産物生産ガイドライン」に基づいた、夢味牛飼養管理台帳による衛生管理などにも取り組んでいる。

同ブランド牛は、埼玉県内の飲食店や県外の量販店などにも流通しており、好評を得ている。生産農場は現在、中村さんと石田さんの2農場のみとなっているが、22年度の出荷頭数は249頭となっており、今もブランドを継続している。

牛枝肉

消費は活発になるが、低価格志向は変わらず

年末商戦が12月の中旬まで続き、相場は活発な動きとなっている。来年の初セリが1月9日と、例年より長い休みとなるので、手当は長引く可能性もある。

年末年始の新幹線予約数がコロナ禍前を上回っているというニュースがあり、人の動きは活発になっているよう。

【乳去勢】11月の東京食肉市場の乳牛去勢B2の税込み枝肉平均単価(速報値)は、791円(前年同月比71%)となり、前月より37円下がった。年末商戦に入り、和牛や交雑種の引き合いが入り、やや乳去勢の動きは鈍いよう。

【F1去勢】11月の東京食肉市場の交雑種去勢税込み枝肉平均単価は、B3が1524円(同101%)、B2が1320円

(同99%)だった。前月に比べ、B3は102円上がり、B2も100円上昇した。12月に入ってからはB3で1600円を超える日が多くなってきた。

【和去勢】11月の東京食肉市場の和牛去勢の税込み枝肉平均単価はA4が2250円(同95%)、A3が1964円(同91%)だった。前月に比べ、A4が192円、A3は153円それぞれ上がった。12月中旬までは、A4で2400円台後半での推移となっている。

【輸入量】農畜産業振興機構は12月の輸入量を総量で3万6400t(同97%)と予測。内訳は、冷蔵品1万5700t(同102%)、冷凍品が2万700t(同94%)。冷蔵品は豪州産が増加することなどから、前年をやや上回ると予測。冷凍品は依然として前年を下回るよう。

【出荷頭数】12月の出荷頭数は、和牛5万2400頭(同112%)、交雑種2万

4700頭(同108%)、乳用種2万6800頭(同97%)と、和牛、交雑種で前年を上回る出荷頭数となる見込み。

消費動向は、やや活発になっているが、低価格志向が緩和されたわけではないので、年始からの動きは伸び悩む可能性が高い。

向こう1カ月の東京市場の税込み枝肉平均単価は、乳去勢B2が800~900円、F1去勢B4が1700~1800円、同B3が1500~1600円、同B2が1300~1400円、和牛去勢A4が2300~2400円、同A3が2000~2100円での推移か。

豚枝肉

鍋物需要が活発で、出荷頭数増でも堅調に推移

11月の東京食肉市場の豚枝肉税込み平均単価は、上物が519円(前年同月比92%)、中物は507円(同91%)となった。前月に比べ上物が41円、中物が37円それぞれ下がった。

12月に入ると、上物が600円を超える動きとなっており、相場は持ち直してきている。鍋物需要も本格的となって

素牛

スモール

肉牛出荷増加で導入活発となり子牛価格が堅調

【スモール】11月の全国24市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳雄が5万5887円(前年同月比210%)、F1(雄雌含む)は7万6318円(同81%)となった。前月に比べ、乳雄は1万697円上昇し、F1も6943円の上昇となった。

肉牛の出荷頭数が増え、牛舎の空きが増えるために導入が活発になってきている。

【乳素牛】11月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が

きた。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、12月は148万頭(前年同月比101%)で、前月とほぼ同数となる見込み。猛暑による頭数減も解消され、前年を超える出荷頭数が見込まれる。

農畜産業振興機構の需給予測によると、12月の輸入量は総量で7万200t(同

畜産物需給見通し

102%)と、前月よりやや減少する見込み。内訳は、冷蔵品3万1600t(同119%)、冷凍品3万8600t(同91%)。冷凍品は、国内在庫が多いこともあり、かなり下回る見込み。

出荷頭数は増加するが、輸入は抑えられており、相場は今後も堅調に推移していきそう。

向こう1カ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が500~600円、中物も500~600円で推移か。

18万3731円(同128%)、F1去勢は34万9857円(同96%)だった。前月に比べ乳去勢は1191円上げ、F1去勢も1万8171円上昇した。

F1去勢は肉牛農家の出荷増に伴う回転導入が活発となり、しばらくは堅調な推移とみられる。

【和子牛】11月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格(同)は、57万1463円(同85%)で、前月より2万6054円のプラスとなった。

前回の見通しと異なり、肉牛農家の導入が活発となったため、堅調な動きとなった。もうしばらくは堅調な推移となるが、枝肉相場の来月以降の上昇があまり見込めないため、素牛価格も落ち着いてきそう。

11月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

ブロック	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		円/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	403	512	306	316	187,510	185,874	613	588
	F1去	2,133	2,241	338	339	353,722	331,785	1,047	979
	和去	2,490	2,462	336	334	628,348	607,475	1,870	1,819
東北	乳去	—	2	—	296	—	66,550	—	225
	F1去	1	4	271	296	123,200	125,125	455	423
	和去	2,617	2,398	320	321	559,234	563,140	1,749	1,756
関東	乳去	2	1	284	201	100,100	38,500	352	192
	F1去	130	161	350	345	343,936	331,148	983	959
	和去	758	995	323	314	627,132	558,147	1,944	1,775
北陸	乳去	—	—	—	—	—	—	—	—
	F1去	—	—	—	—	—	—	—	—
	和去	74	89	260	294	498,791	607,089	1,918	2,065
東海	乳去	1	1	369	283	57,200	3,300	155	12
	F1去	57	41	311	333	299,528	305,639	963	918
	和去	471	213	289	269	595,478	588,381	2,058	2,185
近畿	乳去	—	—	—	—	—	—	—	—
	F1去	—	—	—	—	—	—	—	—
	和去	453	172	267	258	849,948	847,032	3,181	3,277
中四国	乳去	15	15	299	312	110,366	122,320	369	392
	F1去	248	300	334	330	342,610	333,553	1,025	1,011
	和去	726	796	306	306	533,332	514,005	1,741	1,678
九州・沖縄	乳去	2	3	332	315	119,350	99,733	359	317
	F1去	368	299	336	342	342,838	335,695	1,021	982
	和去	10,579	8,887	297	299	547,241	517,332	1,840	1,728
全国	乳去	423	534	306	315	183,731	182,540	600	579
	F1去	2,937	3,046	338	338	349,857	331,686	1,035	981
	和去	18,168	16,012	306	308	571,463	545,409	1,868	1,771

注：(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。—は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。